

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目 次

(1) 新設組織の概要	2
①新設組織の概要	2
②—1 新設組織の特色	2
②—2 既設組織	2
(2) 人材需要の社会的な動向等	3
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	3
②中長期的な18歳等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	3
③新設組織の主な学生募集地域	4
(3) 学生確保の見通し	5
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	5
②競合校の状況分析	5
③学生確保に関するアンケート調査	7
④人材需要に関するアンケート調査	10
(4) 新設組織の定員設定の理由	12

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
富山県立大学大学院看護学研究科博士後期課程	2名	6名	富山キャンパス 富山市西長江二丁目2番78号

②—1 新設組織の特色

学位の分野は「ア 学位の分野」のとおり「看護学」である。養成する人材像は「イ 養成する人材像」のとおりである。

富山県立大学大学院看護学研究科博士後期課程では、修士課程で育んだ専門性と学識を深化させ、看護学の専門領域に関する教育・研究を自立して行い、地域や社会の保健医療福祉のニーズに対応して新しいケアを創成し、看護学を発展・牽引する高度な研究能力および豊かな学識を備えた人材を養成することとしている。また、これらを通して、科学的課題解決能力・自立的研究能力を有し、地域や社会の発展に寄与できる看護教育・研究者及び看護実践の指導者を育成することを目指している。

ア 学位の分野

学位の分野は「看護学」、学位の名称は「博士（看護学）」

イ 養成する人材像

博士後期課程の養成する人材像（教育目標）は次の3つである。

- 1 看護職者としての倫理観と多元的・多角的視点、高度な専門知識と研究能力を有し、地域や社会における多様なニーズに対応するため、科学的に課題解決する能力がある人材を育成する。
- 2 看護現象に焦点をあて、地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向けて必要な看護ケアを科学的思考に基づき考究し、研究成果に基づき看護実践を牽引する人材を育成する。
- 3 科学的課題解決能力・自立的研究能力を有し、地域や社会の発展に寄与できる看護教育・研究者および看護実践の指導者を育成する。

②—2 既設組織

既設組織	入学定員	収容定員	所在地
富山県立大学大学院看護学研究科修士課程	10名	20名	富山キャンパス 富山市西長江二丁目2番78号

本研究科博士後期課程は、本研究科修士課程を踏まえ設置するものであり、修士課程は、これにあわせ看護学研究科博士前期課程に変更し、前期・後期区分制の博士課程とする。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

一般社団法人日本看護系大学協議会データベース委員会の「2021年度(2022年度実施)「看護系大学に関する実態調査」(資料1)によれば、博士後期課程修了生の就職者の55.6%と半数以上が大学・短大・研究機関等に就職している。

近年、全国的に看護系大学の設立、看護系の教育課程数が増加しており、教育課程数は、平成12年84大学、平成22年188大学、令和2年274大学と、令和2年の教育課程数は、20年前の平成12年の3倍を超えており、必要な看護系の教員数が増加している。(資料2 看護系大学数及び入学定員の推移(文部科学省高等教育局医学教育課調べ))

令和3年実施の看護系大学(国公立)教員数に関する調査結果によると、「過去6年間に、当該年度の4月1日時点で教員定数を充足できなかったことの有無」では、全体の80.8%、公立の88.9%が未充足であり、未だ教員数は不足している。(資料3 看護系大学(国公立)教員数に関する調査結果(一社)日本看護系大学協議会データベース委員会、(一社)日本私立看護系大学協会大学運営・経営委員会)

富山県においても、既存の富山大学医学部看護学科に続き平成31年4月の本学看護学部の設置により、富山県内に看護系の学部又は学科をもつ大学が2つになったことにより大学教員の確保、さらに質向上も重要な課題となっている。

一方、大学教員養成の一助となる看護系大学の大学院博士後期課程の富山県の状況については、平成27年度に富山大学大学院医学薬学教育部博士後期課程(看護学専攻)が設置されたが、その修了生は令和4年度まで3名となっており、未だ少ない状況である。

このように看護系大学では、教員の確保が課題となっており、また、大学設置基準では、博士の学位を有することが教授職及び大学院の教員の資格要件のひとつとされており、看護学博士の資格を得ることができる博士課程には需要がある。

②中長期的な18歳等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本大学博士後期課程の入学資格は、看護師の資格をもつ修士課程修了者等であるが、全国の看護系大学院修士課程がある大学院数は、平成12年は大学院数36大学、入学定員は715人、平成22年は大学院数127大学、入学定員2,067人、令和2年は大学院数186大学、入学定員2,762人と、令和2年と20年前の平成12年と比較すると大学院数で5倍以上、入学定員数で3倍以上となっており、看護系大学院の修士課程入学者が大きく増加している。(資料4 看護系大学院数及び入学定員の推移(文部科学省高等教育局医学教育課調べ))

富山県においても、平成9年度に設置された富山大学大学院医学薬学教育部博士前期課程(看護

学専攻)の修了生は令和4年度までに91名輩出しており、また、令和5年4月に本学大学院看護研究科(修士課程)を設置したところであり、本学大学院博士後期課程の入学対象となる者も多く存在している。

また、入学対象者には、最終取得学位が修士を修得している大学教員等も想定している。

日本看護系大学協議会が会員校289校を対象に実施した「2021年度(2022年度実施)「看護系大学に関する実態調査」」によれば、2021年時点の看護系教員の最終取得学位は、修士が4,986人(54.8%)、博士が3,461人(38.0%)となっている。(資料5 最上位取得学位名称別の教員数(「2021年度(2022年度実施)「看護系大学に関する実態調査」))

大学設置基準では、博士の学位を有することが教授職の資格要件の一つとなっており、また、大学院設置基準では大学院の教員の資格要件の一つとされていることから、最終取得学位が修士である看護系教員は博士の学位を取得するため、将来的に博士後期課程への進学を希望すると考えられる。

富山県においては、看護系の大学が2つあるが、例えば本学看護学部教員においては博士の学位の保持者は全体の47%(博士学位保有者27名/全教員数57名(令和6年1月31日現在))であり、本学教員を含め県内の他の大学や看護師養成機関において本学の博士後期課程の進学の需要はある。

③新設組織の主な学生募集地域

富山県立大学大学院看護学研究科(修士課程)は令和5年4月に開設したが、令和5年度の入学者13名全員の出身県は富山県であることから、博士課程も同様にほとんど富山県から進学すると見込まれる。

また、社会人の入学も想定しているが、想定する社会人は、看護師資格を有する、最終学位が修士の大学教員及び現在医療機関に勤務する看護師である。本大学院博士課程では、仕事を持つ社会人の学生が勤務を継続しながら、学修することができる環境を提供するため、夜間授業や土曜日及び夏期休暇等の長期休暇期間を利用した集中講義を併せて行う等大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を実施することとしており、また、富山県立大学は富山市の中心部にあり、県内一円から通学可能であることから、入学者は、富山県出身者が大半を占めると想定される。

(別紙1 富山県立大学看護学研究科(修士課程)の入学者の受験時の出身県)

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

既設組織（近接する学問分野を持つ既設組織の学科等）での実績がないので、後期博士課程の基礎としている令和5年度開設の博士前期課程のPR活動を参考とした。

博士前期課程の令和5年度のPR活動の実績は、説明会の実施、公的病院への個別説明、ホームページ特設サイトにおけるリアルタイムな情報発信、本研究科専用のポスター、リーフレットの作成等を実施した。

イ 新設組織における取組とその目標

本研究科博士後期課程の学生募集広報についても、これらの活動を拡充することにより展開していくこととし、説明会の実施、公的病院への個別説明、ホームページ特設サイトにおけるリアルタイムな情報発信、本研究科専用のポスター、リーフレットの作成等を実施することとしたい。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

ポスター、リーフレットの作成、公的病院への個別説明等で周知を図ったうえで、入学希望者向けの説明会及び相談フォームの対応で入学者2名の確保を見込んでいる。

②競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

富山大学大学院医学薬学教育部博士後期課程（看護学専攻）（以下富山大学という）は、富山県立大学大学院看護学研究科と同じ富山県富山市に所在地があり、富山県立大学に看護学研究科博士後期課程が開設されるまで富山県で唯一の看護学研究の博士後期課程を有する大学である。

「表3 競合校設定の観点」のとおり、設置者・学校種、学問分野、所在地、学力層で類似性が認められることから、競合校とした。

表 競合校の選定の観点

	富山大学	富山県立大学	備考
設置者・学校種	国立大学	公立大学	類似性がある
募集人員	3名	2名	富山大学が1名多い
学問分野	看護学	看護学	類似性がある
所在地	富山市	富山市	類似性がある
学力層	修士修了者	修士修了者	類似性がある

※富山大学大学院医学薬学教育部博士後期課程（看護学専攻）に関する経緯等

平成5年に富山医科薬科大学（統合前）の医学部に看護学科設置、平成9年に大学院医学系研究科修士課程（看護学専攻）設置、平成27年に大学院医学薬学教育部博士後期課程（看護学専攻）設置

○競合校との比較分析

富山大学の博士後期課程においては、前期課程の6分野を3分野に統合しており、教育課程は看護の分野別が前提となっている。一方、本学は分野別ではなく、地域や社会のニーズに即した新しいケアを創成するために必要な専門知識を学ぶことに特化した一領域としている点が特に異なっている。

イ 競合校の入学志願動向等

表 富山大学大学院医学薬学教育部博士後期課程（看護学専攻）の入学志願動向等

入学年度	2021	2022	2023
募集定員	3名	3名	3名
志願者数	2名	3名	1名
受験者数	2名	3名	1名
合格者数	2名	3名	1名
入学者数	2名	3名	1名
定員充足率	67%	100%	33%

富山大学は、過去3年間で定員充足率を満たしていない年が2年ある。

前述したアの競合校との比較分析の結果、富山県立大学では、地域や社会のニーズに即した新しいケアを創成することが、分野別での教育課程とする富山大学と異なっており、そのため入学希望者の対象も異なることとなる。

そして、後述する富山県立大学大学院看護学研究科博士後期課程の設置に関する調査（令和5年11月）によると、博士後期課程への進学希望者53名のうち、富山県立大学大学院看護学研究科博士後期課程に「第一志望」で進学希望するものは15名おり、今後複数年にわたり進学者が確保され、需要があると見込まれる。

また、富山県立大学の教員において、他大学の博士課程に在籍せず博士未取得者の者が10人以上いることから、需要が見込まれる。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

イで述べたとおり、富山県立大学では、地域や社会のニーズに即した新しいケアを創成することが、分野別教育課程の富山大学と異なっており、そのため入学希望者の対象も異なることとなる。

また、富山大学博士後期課程看護科学プログラムの目的は、令和5年の学生募集要項によると、「豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成すること」としており、富山大学の養成する人材は、主として実践的研究者といえる。

一方、富山県立大学の養成する人材は、地域や社会の発展に寄与できる看護教育・研究者及び看護実践の指導者であり、富山県立大学は教育者・研究者の他に看護実践指導者を育成することとしてい

る。

そのため、医療機関の看護師として在職しながらキャリアアップを考える者の需要も見込まれる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学は公立大学であり、本学大学院研究科博士前期課程及び富山大学大学院総合医薬学研究科博士後期課程との均衡を勘案し、入学料及び授業料は国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年文部科学省令第16号）に定める標準額と同額とした。

なお、本学は県立大学であり、県内生の入学料は県内生の場合、県外生に比べ94千円低く設定している。また、県外生の場合であっても他の公立大学大学院より低く抑えている。

【表 競合校及び近隣県の県立大学大学院看護学研究科の学生納付金（令和5年）】（単位 円）

所在地	大学・学部・学科	入学料		授業料
		県内生	その他	
富山県	富山県立大学大学院看護学研究科	188,000	282,000	535,800
富山県	富山大学大学院総合医薬学研究科	282,000	282,000	535,800
新潟県	新潟県立看護大学大学院看護学研究科	282,000	564,000	535,800
石川県	石川県立看護大学大学院看護学研究科	282,000	423,000	535,800

③学生確保に関するアンケート調査

【富山県立大学大学院看護学研究科（博士後期課程）の設置に関するアンケート（修士修了者及び修士在学中の者に対する博士後期課程への進学希望調査等）（令和5年11月）】

アンケート調査内容については、「資料6—①～6—④」のとおり。

ア 調査の概要

1) 目的

修士修了者等に対して、本学が設置を検討している大学院看護学研究科博士後期課程への進学意向等について尋ね、学生の確保の見通しを測ること等を目的として実施

2) 調査対象

看護師の資格を有する修士課程修了者及び修士在学中の学生 109人（大学等教員、300床以上の病院に勤務する職員、富山県立大学看護学研究科修士課程在学中の学生等に配布）

3) 回答状況

有効回答者数78人（回答率72% 78/109人（大学等教員19名、病院職員42名（富山県立大学修士在学者を除く）、本学修士課程在学者12名、その他5名）

イ クロス集計（指定のクロス集計）

以下の条件1～5に合致するものをクロス集計（※）したところ、富山県立大学大学院博士後期課程への12名の入学希望者がいた。

この結果から、将来的に本大学院の博士後期課程へ進学したいと考える現在医療機関に努める看護師、教員、学生が一定数おり、安定的な学生の確保は十分可能であり、今後複数年にわたり進学者が確保され、需要があると見込まれる。

※ 1～5までの条件に全て合致する者をクロス集計した上で、分析を行うこと（令和7年度開設用大学の設置等に係る提出書類の作成の手引 P147）

1 卒業後の進路（進学する考えはないを除く）、2 設置者（公立）、3 興味ある学問分野（看護系）、4 受験希望（第一志望）、5 入学希望（入学する）

【クロス集計結果】

・条件1 博士後期課程への進学希望の有無を問う「問3」の結果は次のとおり。

博士後期課程へ進学を希望				進学する考えはない	その他	合計
できるだけ速やかに進学を希望	状況や条件、環境が整えば進学を希望	必要を感じた場合は進学を考える	計			
2名	15名	36名	53名	25名	0名	78名

進学を希望又は考える者は53名おり、「できるだけ速やかに進学を希望」は2名、「状況や条件、環境が整えば進学を希望」は15名、「必要を感じた場合は進学を考える」は36名であった。

・条件2 条件1「進学を希望又は考える者53名」のうち、大学院研究科博士課程の設置者（複数回答）を問う「問4」の結果は次のとおり。

公立	国立	私立
44名	50名	5名

進学を希望又は考える者53名のうち、富山県立大学の学校種別の「公立」を選択したものは、44名であった。

・条件3 条件1を満たし、条件2「公立」の大学院研究科博士課程設置者を希望する44名の興味ある学問分野（複数回答）を問う「問2」の結果は次のとおり

看護学系 (保健学含む)	医学	教育学	社会学 (社会福祉、福祉マネジメント含む)	その他
41名	6名	15名	14名	2名

富山県立大学大学院看護学研究科博士後期課程が属する「看護学系」の学問分野に興味がある者は41名であった。

- 条件4 条件1～2を満たし、条件3 富山県立大学大学院看護学研究科博士後期課程が属する「看護学系」の学問分野に興味がある者 41 名に対する富山県立大学大学院看護学研究科博士後期課程への受験希望を問う「問5」の結果は次のとおり。

第一志望として受験	第二志望として受験	第三志望以降として受験	受験しない	合計
12名	8名	2名	19名	41名

富山県立大学へ「第一志望」で進学希望するものは12名であった。

- 条件5 条件1～3を満たし、条件4の富山県立大学大学院看護学研究科博士後期課程を第一志望とするもの12名のうち、「入学する」かを問う「問6」の結果は次のとおり。

入学する	他学不合格の場合 合入学する	入学しない	合計
12名	0名	0名	12名

「入学する」と回答したものは全員は12名であった。

イ その他アンケート結果

1) 所属と本学受験希望のクロス集計

問3「博士後期課程への進学の有無」において「進学希望又は考える」53名について、問1所属と問5の「本学博士後期課程の受験希望者」をクロス集計したところ、本学博士号未取得者の教員5名が本学を「受験の第一志望」としており、看護教育・研究者としてキャリアアップするための教育課程として、本学の開設を期待しており、進学も見込める。

また、病院職員の6名が本学を「受験の第一志望」としており、医療現場での多くの課題を解決するため本学の教育課程に期待し、専門性を磨きさらにキャリアアップしたい意欲を持つ病院職員の進学も見込める。

【問1所属と問5本学受験希望のクロス集計】

(n=53)

			受験を希望				合計
			第一志望	第二志望	第三志望	受験しない	
所属	富山県立大学教員	人数	5	1	1	4	11
		所属の%	45.50%	9.10%	9.10%	36.40%	100.00%
	富山県立大学以外の教員	人数	2	0	1	1	4
		所属の%	50.00%	0.00%	25.00%	25.00%	100.00%
	病院職員	人数	6	5	0	17	28
		所属の%	21.40%	17.90%	0.00%	60.70%	100.00%
	既卒その他	人数	1	0	0	2	3
		所属の%	33.30%	0.00%	0.00%	66.70%	100.00%
	富山県立大学修士課程 在学中	人数	1	0	0	3	4
		所属の%	25.00%	0.00%	0.00%	75.00%	100.00%
	富山県立大学修士課程以外 に在学中の病院職員	人数	0	2	0	1	3
		所属の%	0.00%	66.70%	0.00%	33.30%	100.00%
合計		人数	15	8	2	28	53
		所属の%	28.30%	15.10%	3.80%	52.80%	100.00%

2) 本学看護学研究科博士後期課程に進学する場合に重視する点

問6の本学看護学研究科博士後期課程に合格した場合「入学する」意思のある18名に対し、問7において「進学する場合に重視する点」を問うたところ、「通学の利便性」13名、「夜間・土曜日に開講している」12名、「働きながら学べる」12名となり、職業を有する者が、現実的に働きながら学べる環境があるかどうかを重視していることが推測される。

本学は、富山県の中心部にあり通学しやすいことが強みであり、また、職業を有している病院職員や教員等が重視する「夜間・土曜日開講」や「働きながら学べる環境」を本学が導入することから、進学への推進には大いに寄与すると考えられる。

【問7 本学看護学研究科博士後期課程に進学する場合に重視する点】

(n=25)

	度数	パーセント
・指導を受けたい教授・教員がいる	10	40.0
・学びたい教育プログラムがある	9	36.0
・研究に重点が置かれている	3	12.0
・施設や設備が整っている	3	12.0
・通学の利便性がある	13	52.0
・奨学金が受けられる	1	4.0
・授業料の減免制度がある	5	20.0
・夜間・土曜日に開講している	12	48.0
・長期履修制度がある	6	24.0
・働きながら学べる	12	48.0

この結果から、本大学院博士後期課程の特色や魅力を伝えることや、就業しながら学業を継続できるような環境を整えることで、安定的な学生の確保は十分可能であり、需要があると見込まれる。

④人材需要に関するアンケート調査

ア 看護管理者向けアンケート（看護学研究科博士後期課程設置に関する調査（管理者））

アンケート調査概要については、「資料7-①～7-③」のとおり

看護管理者に「自施設における博士（看護学）取得者の必要性」について問うたところ、「とても必要だと思う」が2名、「必要だと思う」が6名とあわせて8名（61.5%）が博士取得者の必要性を感じており、臨床の現場において博士取得者が活躍する場があると考えられる。

【問3 自施設における博士（看護学）取得者の必要性】

とても必要だ と思う	必要だと思う	どちらともい えない	必要でない と思う	わからない	合計
2名	6名	5名	0名	0名	13名

さらに、「博士（看護学）の取得者に身に付けて欲しい能力」を問うたところ、「看護業務や看護実践のために、所属施設での研究活動を遂行できる能力」12名、「多角的・多角的視点で看護業務の課題を把握し、課題に対応する看護実践を新たに作り出す能力」10名、「看護業務の課題解決のために必要な業務を実践の場に定着させる能力」8名の結果となった。病院の看護管理者が期待する博士（看護学）の身に付けて欲しい能力は、本学大学院研究科博士後期課程の養成する人材像（下記）に合致していることから、社会的な要請にも合致していると考えられる。

【問2 博士（看護学）の取得者に身に付けて欲しい能力】

（複数回答）

多角的・多角的視点 で看護業務の課題を 把握し、課題に対応 する看護実践を新た に作り出す能力	看護業務の課題解決 のために必要な業務 を実践の場に定着さ せる能力	看護業務や看護実践 のために、所属施設 での研究活動を遂行 できる能力	看護職の人材育成に ついて、企画立案・ 実践・評価できる能 力	看護系大学等の教育 機関において、看護 職の育成を行うこと ができる能力	その他
10名	8名	12名	9名	6名	0名

○養成する人材像

- 1) 看護職者としての倫理観と多角的・多角的視点、高度な専門知識と研究能力を有し、地域や社会における多様なニーズに対応するため、科学的に課題解決する能力がある人材を育成する。
- 2) 看護現象に焦点をあて、地域や社会の保健医療福祉の課題解決に向けて必要な看護ケアを科学的思考に基づき考究し、研究成果に基づき看護実践を牽引する人材を育成する。
- 3) 科学的課題解決能力・自立的な研究能力を有し、地域や社会の発展に寄与できる看護学教育・研究者および看護実践の指導者を育成する。

また、「博士課程進学者への支援の可能性」を問うたところ、「ある」が10名となっており、働きながら進学することができる環境も整いつつあると考えられる。

【問4 博士課程進学者への支援の可能性】

ある	ない	わからない	その他	合計
10名	1名	0名	2名	13名

イ 要望書

本学の大学院看護学研究科博士後期課程設置に関して、令和6年2月に公益社団法人富山県医師会、富山県公的病院長協議会、公益社団法人富山県看護協会から要望書が提出されている。要望書では、地域や社会の保健医療福祉の様々な課題解決に向けケアを創出していく能力が必要であり、博士後期課程においては、「ケア創出のための研究、そしてその研究成果を看護実践に牽引することができる人材を育成することが不可欠」と、本学の養成する人材像と合致する人材の育成を期待し、博士後期課程の設置を要望している。

ウ 教育者、研究者養成の観点

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会の「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」（2011（平成23）年3月）では、「博士課程教育の充実方策は今後の検討課題であり、教育者、研究者養成及び看護学の学術発展の観点から、博士課程の充実は極めて重要である」とされている。その一方、「①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析」で述べたとおり、全国で看護系大学が増加した結果、看護系の大学教員の数が不足している現状にあり、教育者、研究者養成の観点から更なる博士課程の充実が必要である。富山県でも、既存の富山大学医学部看護学科に続き本学看護学部の設置により、更に教員不足が進んでいる現状にある。

また、富山県立大学教員の前職は、富山県以外での教員等であった者が半数以上おり、富山県内での安定的教員育成の観点からも本研究科に博士課程を設置する必要がある。

これらのとおり、公的病院の看護管理者からも博士課程の必要性が認められ、富山県医師会等からの要望もあることから、今後とも看護学の教育者、研究者養成が必要であり、本学看護学研究科博士後期課程は、社会的な人材需要があるといえる。

（4）新設組織の定員設定の理由

看護学系の教員需要が今後も見込まれることから、看護学系教員（博士の学位未取得者）の博士課程入学の需要が見込め、また、人材需要に関するアンケート調査の結果、看護管理者の大半は博士（看護学）の必要性があると考えており、さらに看護管理者が身に付けて欲しいと期待する能力が本大学院博士後期課程の養成する人材像と合致していることから、病院等の臨床現場での需要も一定数見込める。

また、学生確保に関するアンケート調査の結果では、教員や病院職員等で本大学院博士後期課程進学希望者が相当数存在しており、さらに令和5年4月に設置した大学院看護学研究科博士前期課程の修了生が令和7年3月から継続的に輩出されること等から、長期的に安定した学生確保ができるものとする。

本研究科博士後期課程の設置を予定している富山県立大学富山キャンパスは、富山市の中心部にあり、県内一円からも通学が可能であり、長期履修制度や夜間土曜日開講の実施により、社会人が就業

しながら学業を継続できる環境が整っている。

以上のことから、本研究科博士後期課程における入学定員2名の学生確保は十分可能と考える。